



長期投資仲間通信「インベストライフ」

子どもたちへのマネー教育について語り合う 情報交換ネットワークをつくろう

座談会：中野 靖之氏、飯島 健二氏、住山 志津枝氏、
小谷 晴美氏、赤堀 薫里氏、岡本 和久（発言順）
レポーター：赤堀 薫里

岡本 | 今日は関西地区で投資教育活動をしている方々に集まっていただき座談会をすることにしました。まず自己紹介からしましょうか。



中野 | 中野靖之と申します。大学を卒業してから 19 年ほど証券会社で、日本株のトレーディングをしていました。昨年末に退社して、今年から金融教育をしようと思い、3 月に「寺子屋やすべえ」という屋号で開業しました。4 月からセミナーを開催しています。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

岡本 | どのような内容を教えているの？

中野 | 金融リテラシーを普及することを目的でやっています。最初に金利・インフレ・株についてやります。応用編では「国の財政をどう見るか。年金って大丈夫なの？」など、もう少し学問的にやっています。

岡本 | 対象は何歳位ですか？

中野 | 対象は社会人です。大学生も来てくれています。いずれは、50人の影武者を作り、1,000万人位の日本人に教えたいなということを目指しております。ここにいるみなさんとトータルで1,000万人に教えたら日本は変わると思います。

岡本 | それは気宇壮大ですね。100万人でも日本は大きく変わると思いますよね。目標に少しでも近づけるように力を合わせていきましょう。

飯島 | 飯島健二と申します。銀行に入行してから34年。債権回収を専門にやっていました。住宅ローンは、貸し倒れが非常に低いものです。ただ予期せぬリストラに遭う、介護で出費が重なるなどの事態が起こると返済できなくなります。子供の頃から金銭教育をしていたら回避できたのではないかと思います。5年前に「高校生と親のお金の教科書」という本を書きました。いずれ銀行を退職した時には、社労士の資格を持っているので社労士としてコンサルタント的な仕事をしていきたいと思っています。一方で従業員の方への金銭教育も行いたいです。主なターゲットは、奨学金で大学へ進学をして、初めて一人暮らしをしている子に、大学を卒業後、就職した時の給与明細の見方や、社会保険の仕組み、お金を借りるということの意味などを教えていきたいです。

住山 | 住山志津枝と申します。障害のある子どもたちにお金の教育をしています。もともと教育委員会で6年間、障害のある子どもたちと普通学級の子も達と、1か月のお給料でやりくりをする体験学習を教えるボランティアをしていました。そこで、障害のある子たちが学校で習う算数と、お金が全然結びついていないことを知りました。どんなに頑張っても生活に全く役立たないという現状を目の当たりにして、それらをつなげるプログラムを作りたいという思いと、学校の先生がお金を教えることにすごく困っていることから、6年間の間に考えて作ったプログラムを、今広げているところです。

岡本 | 月刊誌に記事を書いていますね。

住山 | はい、学校の先生が定期購読されている「実践障害児教育」に、毎月連載をしています。フ



長期投資仲間通信「インベストライフ」

ファイナンシャルプランナーだからこそ書ける視点が、学校から授業を依頼される理由の一つかと思います。有り難いことにセミナーの依頼が多く、1人ではとても無理なので講師を育成して、子どもたちによりよい教育を届けたいと思っています。

岡本 | 例えばどんなことを教えるんですか。

住山 | 障害のある子どもたちにとって、学校の算数とお金がつながらない理由の一つは、1円玉5枚と5円玉1枚が同じだと認識することがとても難しいからです。1円玉と5円玉では見た目も違うし、枚数も違います。日本の5円玉は漢数字の「五」しか書いてないのです。「5」という記載がない。ですから数字とつなげようがない。学校の先生は、1の位から順番に教え、100の位まで到達したらお金を教えると思いますが、それでは一生お金を使えないまま卒業します。卒業後に学校で12年間勉強してきたことが全く役立ちません。

岡本 | 住山さんが教えたら、1日でお金を使えるようになるというお話を聞いたことがあります。

住山 | そうです。私が教えたら1日でお金を使えるようになります。10まで数えられるかが、お金を教える基準です。10まで数えられる子がいたら、練習でスーパーへお買い物に行き、実際に体験させることができます。子どもたちが変われば保護者も変わり、保護者が学校の先生に伝えようとします。それで、学校の先生にも指導させてもらえることができるようになりました。子どもたちの成長が先生と保護者にとって共通の目標であり夢ですからね。

岡本 | お金を使えるようになり、買い物をしているいろいろな食材を買って、料理を作るんですね。

住山 | はい、お料理教室をやっています。なぜ料理かというと、理由は2つあります。お金のやりくりと料理は要素が一緒です。例えば、私たちが「何して食べてんの？」と聞かれた場合、職業もしくはお金を稼ぐ手段を聞かれています。「こんなじゃ食べていかれへんわ！」という、お金が足りなくて生活ができない、お金そのものを食べると表現します。お金と食べ物は非常に似通っています。それはもともと食べ物同志の物々交換から始まったからです。だからやりくりの要素と一緒にということでお料理教室をやっています。お料理の道具の包丁はお金とそっくりで、すごく便利な道具だけど、使い方を間違えれば人を殺せますよね。

岡本 | なるほど。

住山 | 人間の本能として食べなければ生きていけません。障害のある子どもたちにも分かりやすくするには、食べ物に全部例えていくとすごく入りやすい。お料理教室をやることで生きる力も身に付きます。何よりも子どもたちが作ったご飯を保護者に食べてもらうことで、子ども



長期投資仲間通信「インベストライフ」

たちが「ありがとう」をいっぱい受け取ることができます。そうすると、ありがとうという貯金が心の中にいっぱいできて、初めて子どもたちは自分から「ありがとう」と言うのではないかと思います。経済の観点でいえば、「ありがとう」の循環がお金の循環であり、誰かを喜ばせて将来のためにもらえることも教えてあげることができます。エプロン姿の謎のFPです。

小谷 | 小谷晴美と申します。前職は経営コンサルタント会社で、会社の法人の財務や管理職研修等を主にやっていました。その時は、法人の会計は人に教えるほどわかっていたのに、自分の給与明細を見ることができませんでした。なぜこんなに引かれているのか、その引かれている社会保険がいざという時にどんなことをやってくれるのか、税金の計算方法もわからず、源泉徴収票もそのままファイルに入れたまま二度と見ることはありませんでした。

岡本 | そういう人も多いと思います。私もサラリーマン時代はそうだった(笑)。

小谷 | 法人と個人とは全く考え方が違い、結婚して夫が独立開業した時に何をやったら節税になるのかもわかりませんでした。個人事業主は、誰からも教えてもらえないので、自分で勉強しないと損をと思ったのが勉強するきっかけです。もちろん税金のことは税理士さん、金融商品のことは金融機関ですけど、トータルで自分の人生、自分のお金のことを考えられるのはやはり自分ですね。

岡本 | 将来の自分を支えるのは今の自分しかいない。

小谷 | 勉強を始めていくと、「なぜ高生までに教えてくれなかったの？」と腹が立つことがたくさんありました。国も金融機関もあほな方が都合はいいのかな？と思ったことから、頼まれもしないのに、10年間くらい生協さんの組合活動として、ボランティアでお金について話を始めました。今は、「一家に1人家庭のファイナンシャルプランナーを」と思い、家庭のファイナンシャルプランナー養成講座を年間通して活動しています。

岡本 | 「一家に1人家庭のファイナンシャルプランナーを」はいいですね。

小谷 | 生協の時もFP3級養成講座をやっていましたが、FPの資格を取るための勉強ではなく、家計のお金がわかる講座。大事なことは、最初に今の家計にどれくらいお金が入り、1年間にいくら使い、どれだけ残るのか大きな流れを知ること。これはFP3級ではやりません。まずは現状を把握して、そこから将来はどうなるのか、今のお金の状況を改善する必要があるらばもっと改善する、貯蓄をする必要があるらば貯蓄する。そのようなことが出来る人を一家に1人作りたい。1人お母さんが賢くなってくれたら、自然と子どものマネーリテラシーも上がっていくと思います。そういう思いをもって、現在は家庭のFP養成講座を年間通してやっています。また、女性が小さな仕事を始めるプチ起業家さんが、思う存分活躍できるた



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

めに必要となる知識の面でもサポートしています。

赤堀 | 赤堀薫里と申します。独身時代に会社員の傍ら MC 業をしておりました。司会の仕事をしていた時に FP の資格を取得しました。当時は経済のことを全く知らなかったので、FP の資格を取得した時に、経済の仕組みがわかり、知らないと損することが沢山あることを知りました。そこでこの情報を多くの人に伝えたい！という思いが強くなり、地元の FM ラジオ局で FP 情報発信番組を立ち上げ、地元の税理士さんや社労士さん等をお招きして対談形式の番組を 5 年間ほど放送していました。結婚を機に東京へ住まいを移し、10 年間東京におりました。

岡本 | たまたまその時、私の会社で誰か仕事を手伝ってくれる人を探していたんですね。そうしたら赤堀さんが飛び込んできた。まさにありがたいご縁でした。赤ちゃんを妊娠してから出産までの記録を連載でこのインベストラ이프に書いてもらったこともありましたね。私は勝手に当社の大阪駐在員だと思っています。

赤堀 | 本当に貴重な出会いでした。さらに東京にいた時に、岡本さんを通じて知り合った川元由喜子さんにお声掛けいただき「経済に強いママをふやす会」という活動をしておりました。子どもに金銭教育を教えることはすごく大切ですが、子どもに教えるべき親が、お金について教えてもらう土壌がないわけです。お家を買う時は誰もが直面するのに、土地の買い方、ローンの組み方について教えてもらっていない。保険の買い方も知らなければ、金融商品の買い方も知らない。そのような基本的な知識を教えてもらえないまま、なぜ学校を卒業すると社会人とみなされ、当たり前のように税金や社会保険料を徴収されるのか疑問に感じました。日本は自ら請求しないともらえません。そのシステムもおかしいなと感じています。それらを伝える役割が FP だと思っています。

岡本 | そしてご主人の転勤で大阪へ移住したんですね。

赤堀 | 2 年ほど前に大阪に住まいを移しました。周りのママ友は、意外にも投資に興味を持っていますが、子育て真っ只中ということもあり、まずは子どもへの投資が先立ち、習い事へ意識は集中しているようです。自分の老後への資金は先送りになっています。私は主婦のど真ん中にいるので、主婦の方を対象にしたこぼれ話をしていきたいと思っています。今、息子が 9 歳になり経済と算数が結びついてきたところです。

自宅の近くの商店街の夏祭りで場所代をいくらか支払うとお店を開けると聞いたので、今年の夏休みにお店を開こうと計画中です。息子のお友達何人かに声をかけています。お母さん達が最初の投資をして、そのお金をもとにどんな商売をやるのか子ども達に考えてもらいます。対象は同じ小学生です。みんなが喜ぶことは何か？いくらだったら払うのか？何人くらいさばけるのか？というようなことを具体的に何回かレクチャーしながらやっていくつ



長期投資仲間通信「インベストライフ」

もりです。

一同 | それは素晴らしい！

赤堀 | 以前一度、子ども店長というイベントに息子が参加しました。子どもが出来上がっているお店に1日だけお店の店長をするというコンセプトでした。実際に子ども店長を見てみると、初めての接客になかなか声が出にくそうでした。そこで、もう一歩進んだ形で、なぜ物売りのかを前段階でレクチャーしたうえでお店に立つお店やさんをしたと感じました。そして、お店を開くには資金が必要なんだよというところまで伝えていきたいです。何回か回数を重ねていき、その売上の利益をどう分配していくのかまで考えられたらいいですね。お店を開いている時に、売上状況によってはいつから値下げを始めるのかということも考えてもらえると思います。いずれは商店街の方たちに子どもたちへのレクチャーをしてもらえたら、生きた知恵が活かされるのでコラボできたらと考えています。

岡本 | 今の世の中にないビジネスを考え出してもらえたらいいね。私が毎年8月にやっている「大人と子どものためのハッピー・マネー®教室」で、「中学生、高校生にわかる起業家になろう」というセミナーをしました。その中で子どもたちに①どういうビジネスをしたらいいのか、②その為には何が必要でお金はいくら必要か、③値段をいくらにしたらいくらぐらい儲かるのか、④将来性は？という4つの視点で書いてもらい、みんなの前でプレゼンテーションしてもらいました。結構面白いアイデアがありましたよ。

記憶に残っているビジネスは、小学5年生が考えた「農業代行」。兼業農家が多く、農機具が空いていることが多いので、それを使い農業の手伝いをする事で農家の人も喜ぶ。1日のコストがどれくらい掛かるかというと、ペットボトルの水代の100円(笑)。売上は1日3時間で300円。将来性は非常に大きいと言っていました。日本の食料自給率が40%くらいしかないけれど、農業代行がもっと進めばいずれ農産物の輸出国になることも可能ではないか、そして世界の食糧危機を少しは救えることになるのではないかなというように書いてありました。

こうしてちゃんと自分が始めた事業が農家にとって、日本にとって、そして、世界にとってどのような意味を持つのかも考えているんですね。このような柔軟な発想こそこれからの日本には必要なんだと思います。いろいろ考えさせるとすごく面白いアイデアが出てくるかもしれない。これからのビジネスを考えると、今あるモノよりはないモノの方がいいと思います。

赤堀 | 子どもたちの視点で、今、存在しないビジネスで、社会が必要としていることを考えるいい機会だと思います。応援する企業を選ぶ時の方針にもつながりますよね。

岡本 | 起業する時の視点にもつながるよね。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

赤堀 | 将来起業する子どもたちを支援する意味でもそうですし、お店やさんを開く時に、資金集めまで考えて体験することで、実際の株式投資へのハードルが下がると思います。

小谷 | 株式投資は投機ではなく、経済活動の一つだということですよ。

岡本 | 皆さん、独自に考えてやろうとしていますね。もう少し、お互いに連携し合って助け合いながら、境界線を越えて情報交換する。仲間がもっと増えればいいし、切磋琢磨してレベルをあげていけたらいいですね。Facebookでハッピー・マネー®ネットワークというグループを作っているのもそんな目的のためです。ただ、そこに参加する人がお互いに知り合いであることを条件にしています。ですからグループに入ったらまず自己紹介を書くところから始めさせてもらっています。今日、参加された方はみなさん、そのグループのメンバーへの声掛けに応じてくださった方々です。

8月19日には東京で、当社が毎年やっている「大人と子どものためのハッピー・マネー®教室」を開催します。関西からキャサリン(竹内かおりさん)とナンシー(西岡奈美さん)が参加してくださり「おかねのおはなし」をしてくださいます。今日は都合が悪く参加できませんでしたが、非常に幅広く活躍しているお二人なのでとても楽しみです。私はハッピー・マネー®四分法のお話をします。少し、「ふやす(投資)」の部分をお話したいと思います。ハッピー・マネー®ソングの作詞・作曲者である Labi さんによる歌唱指導もあります。子どもたちにはワークショップをしてもらいますが、その間、大人の方には金沢の谷崎由美さんがライフ・プランの実際についてお話をしてくださいます。そして最後が毎年、大人たちを感動させる子どもによる発表会です。詳細は下記の URL また QR コードをご覧ください。

2018/08/19(日) 13:30 - 16:30

会場: 東京八重洲ホール 2階 201 会議室

アクセス: 東京都中央区 日本橋 3-4-13 新第一ビル

詳細・お申込みは PEATIX からお願いします

→ <http://happymoney2018.peatix.com>

お問合せ: info@i-owa.com (I-O ウェルス・アドバイザーズ)



最後は宣伝になりましたが(笑)、今日はどうもありがとうございました。みなさんの活動を伺いこのような活動が広まっていることを知り、とてもうれしく思いました。